

|      |             |  |  |  |     |
|------|-------------|--|--|--|-----|
| テーマ  | 無形固定資産、繰延資産 |  |  |  |     |
| 学籍番号 |             |  |  |  | 氏 名 |

## 1. 次の文章の空欄にあてはまる語句を答えなさい。

- ・ 研究開発費はすべて発生時に費用として処理するが、その方法には、一般管理費として処理する方法と（ ① ）として処理する方法がある。
- ・ 市場販売目的のソフトウェアである製品マスターの（ ② ）に要した費用は、資産として計上してはならない。
- ・ 市場販売目的のソフトウェア及び自社利用のソフトウェアを資産として計上する場合には、（ ③ ）の区分に計上しなければならない。
- ・ 社債発行費を繰延資産に計上した場合には、原則として社債の償還までの期間にわたり（ ④ ）により償却しなければならない。
- ・ （ ⑤ ）（新株の発行または自己株式の処分に係る費用）は、原則として、支出時に費用（営業外費用）として処理する。

|   |        |   |       |   |        |
|---|--------|---|-------|---|--------|
| ① | 当期製造費用 | ② | 機能維持  | ③ | 無形固定資産 |
| ④ | 利息法    | ⑤ | 株式交付費 |   |        |

## 2. 次の資料に基づき、見込販売数量に基づく場合の決算時（当期は平成 22 年度）の仕訳を示しなさい。

## 【資料】

- ① 当期の市場販売目的のソフトウェア製作費 ￥6,500,000 である（無形固定資産で処理）。
- ② 見込販売数量と見込販売収益は、次のとおりである。なお、当期の実績販売数量と実勢販売収益は見込みどおりであった。
- ③ ソフトウェアの見込有効期間は 3 年である。

|          | 見込販売数量   | 見込販売収益      |
|----------|----------|-------------|
| 平成 22 年度 | 15,000 個 | ¥7,500,000  |
| 平成 23 年度 | 10,000 個 | ¥5,000,000  |
| 平成 24 年度 | 7,000 個  | ¥3,500,000  |
| 合 計      | 32,000 個 | ¥16,000,000 |

| 借方                 | 貸方               |
|--------------------|------------------|
| ソフトウェア償却 3,046,875 | ソフトウェア 3,046,875 |